■プレゼンテーション　１０／ブース５■

キーワード：考える

哲学対話「学校そもそも会議」で社会人と対話
話して、聞いて、考えよう！
支援団体:　一般社団法人子どもの成長と環境を考える会

一般社団法人子どもの成長と環境を考える会が主催者となって、この哲学対話「学校そもそも会議」が始まりました。東目本大震災以降、「これまで当たり前だったことが当たり前ではなくなった」、「なにが正解なのか簡単にはひとつの答えが出ない」、と感じた社会人が中心となって、普段は接点のない異業種の社会人どうしの交流を促す手法として発案されました。

大人の間で始まったこの取組は、その後、参加者のひとりであった高校の教員によって、社会人と若者の対話型ワークショップにカスタマイズされ、まず千葉県立東葛飾高校に導入されました。この５年で、関東エリア、約 20 校で展開された小学３年生から高校３年生までのキャリア教育支援プログラムです。

“そもそも”を問う、そのねらい

〇社会人ボランティアが協力者

４、５人の生徒のグループに、社会人ひとりが加わってグループワークを行います。この目は、支援団体のネットワークで、企業人、公務員など 10 名を超える協力者が集まっていました。ある社会人は、「普段、学生と対話する機会などまったくないので、毎回とても新鮮な体験です」と協力者となっている動機を語っていました。

〇運営上の“掟”

協力者には、経験者や、今回が初めての参加者もいました。プログラム開始前に、「自分の体験を語ろう」「正解の主張や説得の禁止！」といった進行上の６つのポイントを中心に、人生の先輩として“対話”に徹するという役割を確認します。

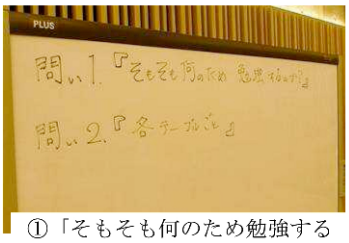
〇進路指導上のプログラム導入意図

この日、実践学園中学・高等学校で実施の運びとなったのは、進路指導担当の先生が、他校での導入を見学したことがきっかけとのことでした。「『みんなも進学するから』ではなく、進学先など進路を決める前に、高校生があらためて自分の将来を立ち止まって考えることの必要性と常々感じていました。社会人や仲間と対話し考える機会として、希望者に体験してもらうことにしました」とおっしゃっていました。

各グループに入る社会人による事前の打合せ風景

オープニング、進路指導の先生から、今回の目的について説明がありました。

自ら「問い」を生み出す体験

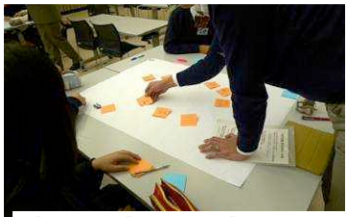


①「そもそも何のため勉強するの？」が最初の問い

最初の問いは、「そもそも何のために勉強強するの？」です。普段当たり前なこの問いをめぐり、グループごとに意見交換します。「ますます疑問ばかり」といった声も聞こえました。

後半は、ひとりひとりが「そもそも」の問いを出し合い、その中からグループごとにひとつの問いを選択して対話を進めます。与えられた“問題”に回答するのではなく、自ら“問い”、課題を見出す体験、

答えを求めることが目的ではなく、“問い”をめぐり大人や仲間と対話する体験が、この「そもそも会議」です。


④後半の「問い」は「そもそも」の疑問を出し合い、グループごとにひとつ決めます

②5 名程度の学生グループに社会人がひとり「勉強って何のため？」

③グループで話された内容の要点を、全体に発表してシェアします

⑤最後に、討議の内容を発表しました